

平成28年度 横浜市立緑園東小学校「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、バス利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。緑園東小学校では、相鉄バスと連携し実施しました。
- 緑園東小学校は、緑園都市駅周辺の大規模住宅団地近くに立地し、駅まで直線距離で約600mと、歩いて行ける距離に駅があります。
- そのため、子どもたちが駅に行くときは、歩いたり、自転車を利用したりすることが多く、**バスは雨の日や夜遅いときなど、使う場面が限定的**になっています。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市の担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いすなどを使った体験プログラムも行われました。
- クラスごとに、①バスを用いた車いす利用体験・介助体験、②バスのバリアフリーに関する座学を交互に学びました。
- 横浜市は、このうち②の座学を担当し、**バスのバリアフリーの現状**を伝えるとともに、**モビリティマネジメントの大切さ**を伝えました。
- なお、交通バリアフリー教室に先立ち、事前にバリアフリーについて子どもたちに考えてもらうための学習ツールを配布し、基本事項を学習してもらっています。



車いすの使い方を説明



座学

■交通バリアフリー教室について

【日時】平成28年9月27日(火)
1クラス 第1・2校時(8:45~11:05)
2クラス 第2・3校時(9:55~12:15)

【対象】緑園東小学校
4年生1・2組(73名)

【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験
②バスのバリアフリーに関する座学
→クラスごとに分かれて実施



■バリアフリーの事前学習ツールの配布

事前学習のツールとして、横浜市健康福祉局の子ども向けバリアフリーパンフレットと、以下の項目を整理する学習メモを配布。

- ①バリアフリーって何？
- ②身近なバリアフリーを調べてみましょう。
- ③バリアフリーは必要？



▲子ども向けバリアフリーパンフレット

2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 横浜市の担当した座学では、「もっと知ってほしいバスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「**誰もが使いやすい**」を目指してきた**バスのバリアフリーの現状**等について授業を行いました。
- その上で、今後バスの利用者が減少していくと、「**バスが将来、無くなってしまう**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- また「便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行く」など、心がけてほしいことを伝えました。
- 今回の授業では、バリアフリーの事前学習とともに、座学や体験学習で学んだことを実践していくために、自分の言葉で「宣言」としてまとめてもらう仕掛けを用意しました。
- 授業の最後に、みんなの前で数人に宣言してもらったところ、「**これからの私は、もっと生活の中でバスを使ってみます**」とか、「**車いすなど困っている人がいたら手伝ってあげます**」、「**周りの人にもバスの良さを伝えていきます**」など、モビリティマネジメントやバリアフリーの趣旨に相応しい宣言が出ていました。

おわりに

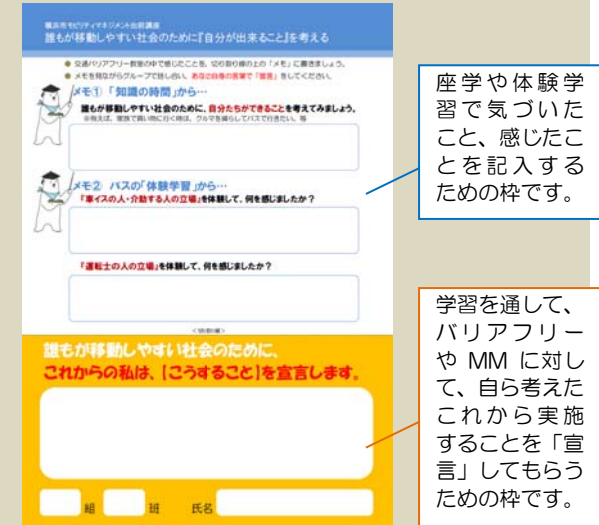
- 今回の交通バリアフリー教室では、新たな試みとして授業の最後に「宣言」という仕掛けを行いました。
- これにより、自ら考え発言することで記憶に残すと同時に、家族や友人など周囲に発信してもらうことを期待しています。
- 実際の体験学習を通して、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ、大変さを多くの子どもたちが肌で感じた**ようです。また、バスが将来にわたり存続していくために**自分たちができること**を考える機会になったと思います。
- 自分の言葉で「宣言」したことを記憶し、**これからもバスを上手に使い、バスで困っている人をサポートするきっかけ**となってほしいと思います。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知ってほしい「バス」のこと



②学習時に感じたことを記録するためのメモ



学習を通して、バリアフリーやMMに対して、自ら考えたこれから実施することを「宣言」してもらったための枠です。



運転士さんによる、車いすを設置する動作のデモンストラーションがありました。手際の良さは、さすがです。



授業の最後に自分の言葉で「宣言」してもらいました。モビリティマネジメントのこと、バリアフリーのこと、色々な「宣言」が生まれました。